
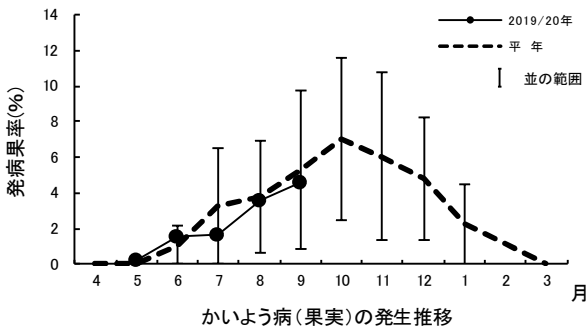


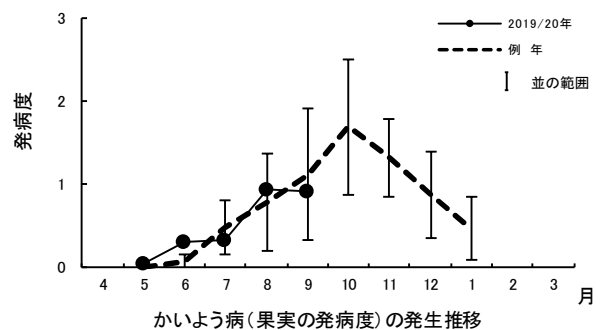
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	台風襲来の影響 平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

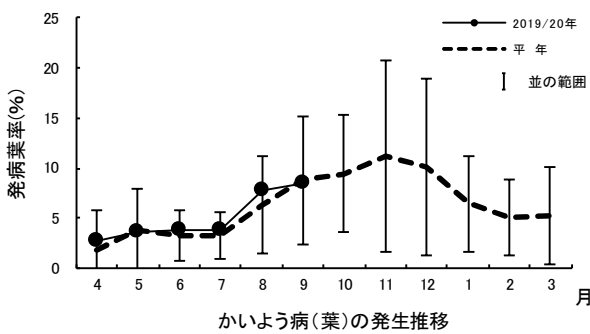
(発病果率)



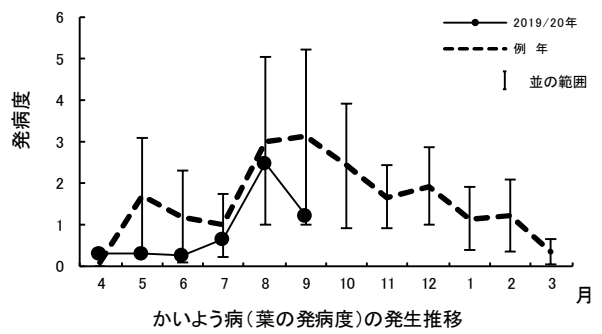
(果実の発病度)



(発病葉率)



(葉の発病度)




- ・ 病害虫防除員報告：多発生（本島北部）

防除のポイント

- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。
- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

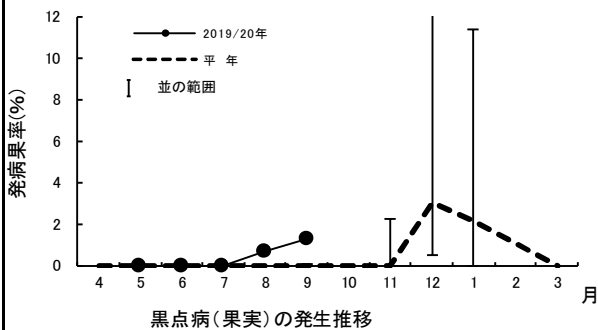
被害葉→



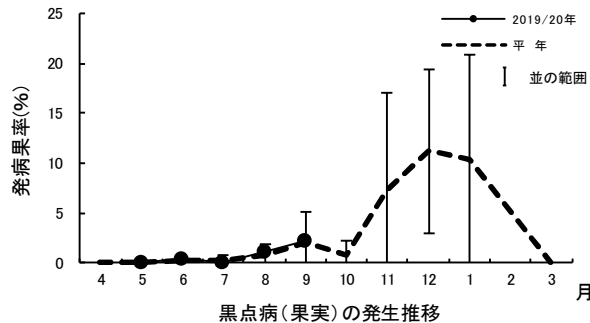
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	やや多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

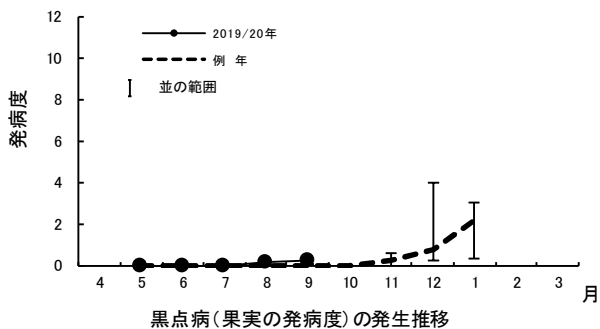
(発病果率/中央値)



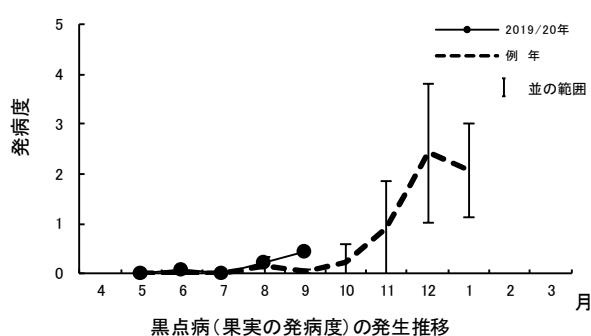
(発病果率/算術平均)



(果実の発病度/中央値)




(果実の発病度/算術平均)



- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）

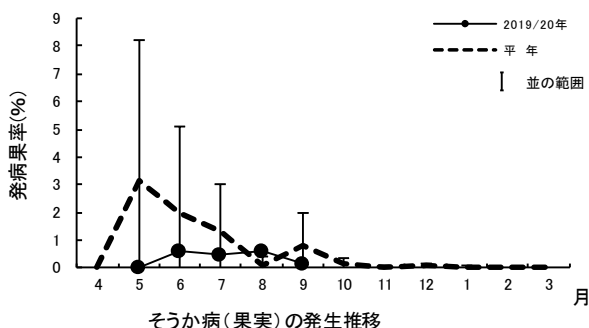
防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

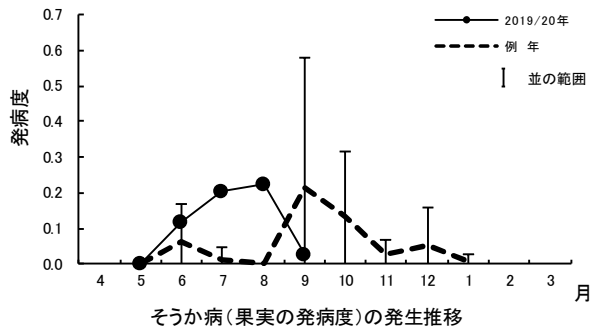
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (∨) 発病葉率が平年より多い	

調査結果

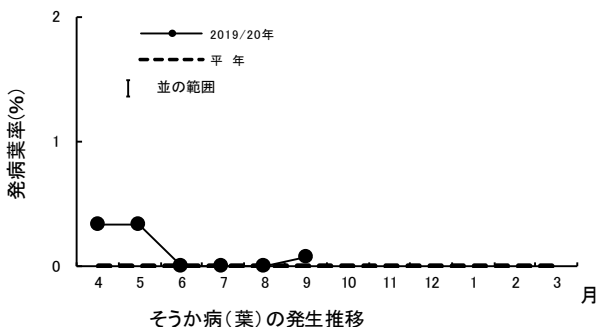
(発病果率)



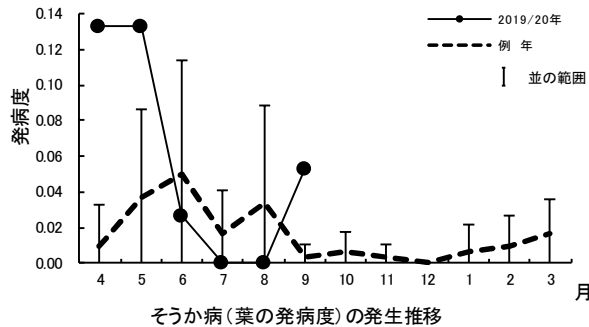
(果実の発病度)



(発病葉率/中央)



(葉の発病度)



防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

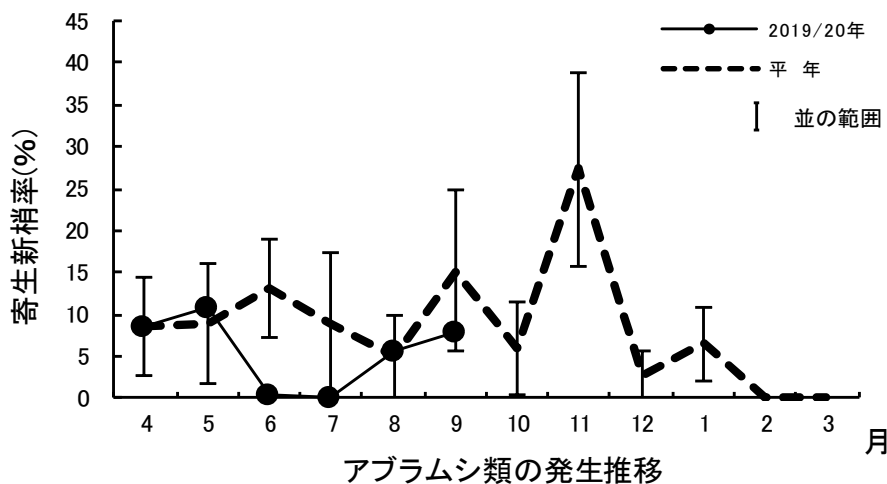
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
予報	10 月の発生量（平年比）	並	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移（↓）	



調査結果




- ・ 病害虫防除員報告：中発生（本島北部）
- ・ 発生種：ユキヤナギアブラムシ(ミカンミドリアブラムシ)、マメアブラムシ

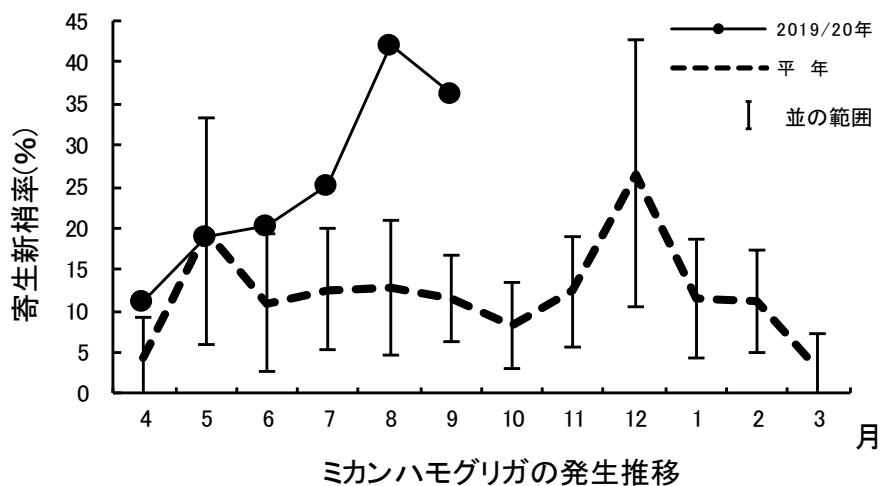
防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。




作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
予報	10 月の発生量（平年比）	やや多	
	9 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	9 月の発生量（平年比）	多	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

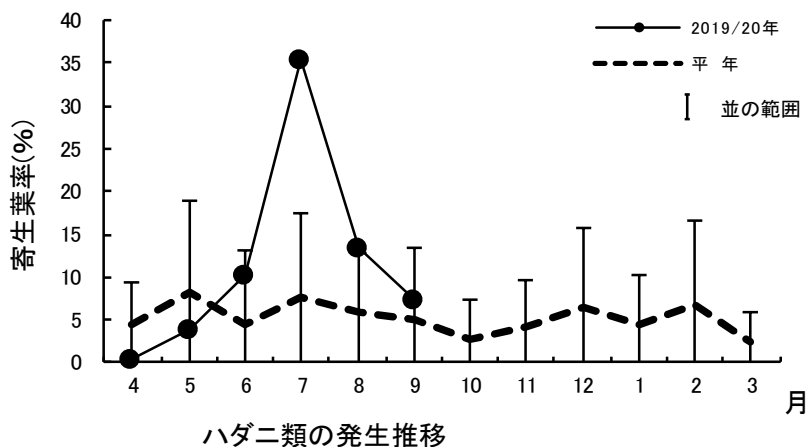


防除のポイント

- ・被害葉にかいよう病が発生しやすく、伝染源になるので除去に努める。
- ・被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
予報	10 月の発生量 (平年比)	並	
	9 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	9 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果



- ・ 一部ほ場で多発した

防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状